



幼児教育センターだより

富山県教育委員会 教育みらい室 小中学校課
富山県幼児教育センター

幼児教育施設訪問研修 ありがとうございました！

今年度は 47 園・所へ、51 回訪問させていただき、子どもたちと先生方のすてきな姿をたくさん見せていただきました。その中のいくつかを紹介します。



— 落ちないように、慎重に —



— 先生に大注目！ —



— 何しているの？ —



— 力を合わせてつくるぞ！ —



— 園内研修も充実しています —



— 先生方の笑顔もあられます —

園・所の先生方の声

アドバイザーからご意見をいただくことで、自分たちが気付いていない課題や、保育の中でこれからも大切にしていけることを学ぶことができ、とても有意義だった。

今後の保育につながる言葉をたくさんいただき、保育者自身のはげみになった。子どもの主体性についてアドバイスをいただき、参考になった。

1 回目の研修でのアドバイスを受けて、若手職員が自らのアイディアで新しい取組をしていた。職員の意欲が出てきたことを大切にしていきたい。

小学校の先生方に実際に保育を見てコメントをいただき、小学校の先生方の視点にも気付くことができた。大変勉強になった。

全51回の訪問研修のうち、近隣の園・所から参観されたのが 29 回（約 57%）、小学校から参観されたのが 33 回（約 65%）でした。



令和7年度も訪問研修を実施します。1月以降も希望を受け付けます。希望がありましたら、ご連絡ください。

幼保小の円滑な接続について

— 令和6年度幼児教育センターの取組から —

幼…幼児教育
※保…保育
小…小学校教育
を表します。

11月に4会場で行った地区別幼・小接続研修会は、保育者と教員と一緒に研修を受ける貴重な機会となりました。「他園・所や小学校の先生とよい雰囲気の中でいろいろな話をすることができた。とてもよい時間になった」「小学校の先生と子どもの捉え方が違うことが分かった。新しい発見になった」など、事後アンケートからは、参加してくださったみなさんの有意義な時間となったことがうかがえました。

幼児教育と小学校教育は、子どもの発達の段階が異なることから、教育の方法や考え方には当然違いがあります。子どもがこれまで以上に主体性

を発揮し、よりのびのびと架け橋期を過ごしていけるように「子どもの幼児期の学びをどのように小学校でつないでいくか」を保育者と教員で一緒に考え、できることに取り組んでいきましょう。

また、「保育(学習)参観の際に、先生方の役に立つガイド」を目指し、「わくわく・きときと接続ガイド」を改訂しました。

幼児教育と小学校教育の違いを知ること、さらに互いを理解し合うためのポイントがいくつも載っています。「現場の先生は実際どうしているのかな？」と園・所や小学校に足を運んでみませんか？



★ 青山スーパーバイザーの 訪問研修の記録から ★

令和6年度の訪問研修の全日程を終え、園・所の先生方、訪問してくださった先生方のアンケートや報告書を読み返しました。その中に、以下のような青山スーパーバイザーの言葉がありました。

保育者が子どもたちの遊びの様子全体を見ようとすると、意図や思いを押し付けてしまうことがあります。子どもたちが夢中になっていたら任せ、困っている子どもに寄り添ってあげてください。

読み返すと、大切なものを見逃していたのかもしれないという気持ちになりました。大切なもの、それは目の前の子どもの表情、動き、言葉等です。子どもの姿にこそ、私たちの関わりのヒントがある。青山スーパーバイザーの言葉から、その大切さを改めて感じました。

「子どもの主体性をどう考えるか」について、文部科学省の研修でも、教師の意図と子どもの主体性のバランスが大切で、難しいという話がありました。だからこそ、子どもたちの思いに寄り添うことが大切なのではないでしょうか。

「一人一人を見つめ、育てる」これは県教育委員会が大切にしていることです。これからも、一人一人のかけがえのない子どもたちの姿を見つめていきたいですね。



【1月の主な予定】

- 8日(水) 第2回園内研修充実のための研修会
- 10日(金) 研修に係るワーキンググループ(オンライン)
- 21日(火) 第3回 幼児教育研究委員会
- 27日(月) 第3回 市町村幼児教育担当者等連絡協議会(オンライン)
- 31日(金) 幼児教育推進リーダー育成研修閉講式
アドバイザー研修会・フロアアップ研修会(オンライン)
(講演: 京都教育大学 教授 古賀松香 氏)

【2月の主な予定】

- 4日(火) アドバイザー研修会

